

音声付きPowerPoint

- ・[共通] 準備物 ... P 2
- ・[共通] 講演データの作成について ... P 3
- ・[Windows共通] マイクの確認方法 ... P 4
- ・[Windows] PowerPoint2019・Office365 ... P 4
- ・[Windows] PowerPoint2013・2016 ... P11
- ・[Windows] PowerPoint2010 ... P15
- ・[Mac] PowerPoint for Mac 2019 ... P19

準備物

1. 下記いずれかのバージョンのPowerPointを搭載しているPC

- ・Windows: PowerPoint 2010, 2013, 1016, 2019, Office365のいずれか
- ・Mac : PowerPoint for Mac 2019, Office365のどちらか

2. マイク(音声入力ができる環境)

内蔵マイクでの録音も可能ですが、周囲の音声(ノイズ)も録音されてしまう為、ヘッドセットマイクなど、外付けマイクの使用を推奨します。

講演データの作成について

動画に入れるスライドの選択

動画に入れるスライドを選択します。

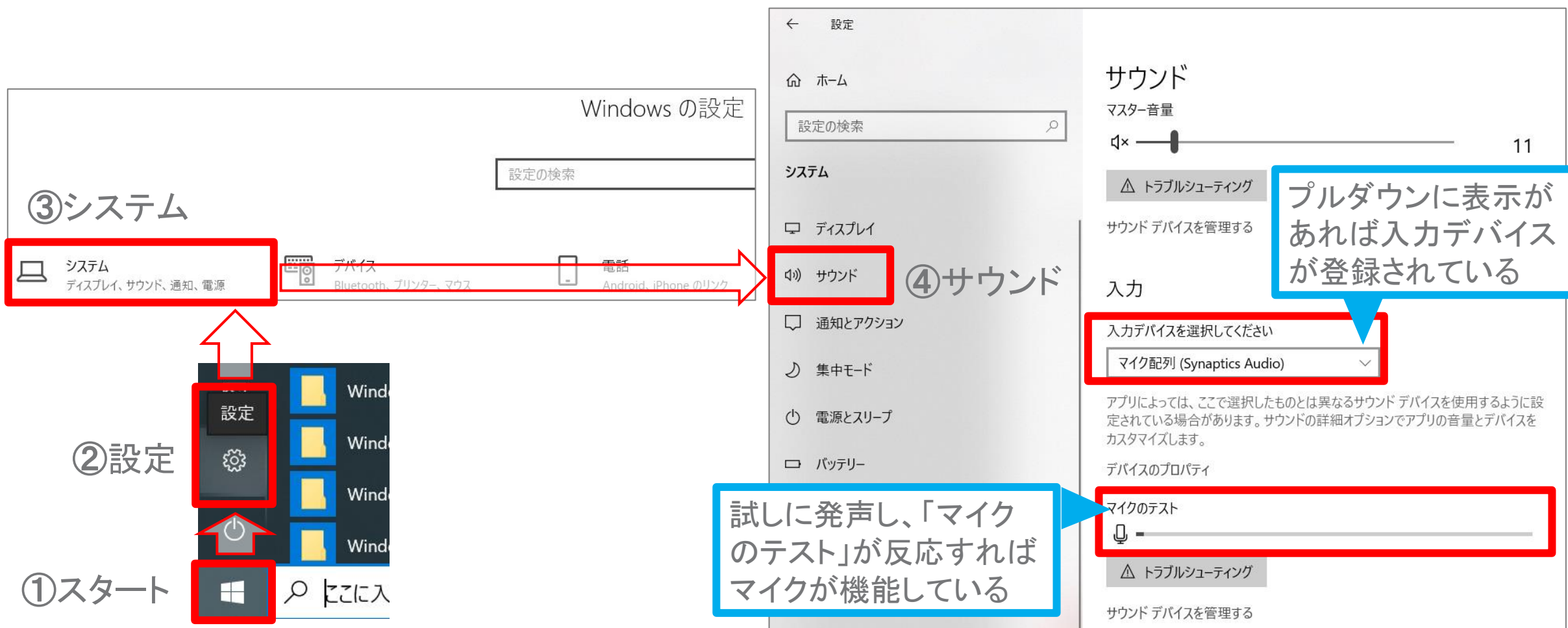
非表示設定をしない限り、すべてのスライドが動画に組み込まれています。

プレゼンで使用しないスライドや動画に入れたくないスライドは、非表示スライドに設定してください。

Windows共通 マイクの確認方法

マイクの確認方法

「スタート」→「設定」→「システム」→「サウンド」をクリックし、入力デバイスが登録されていることを確認します。「マイクのテスト」では試しに発声し、反応することを確認します。

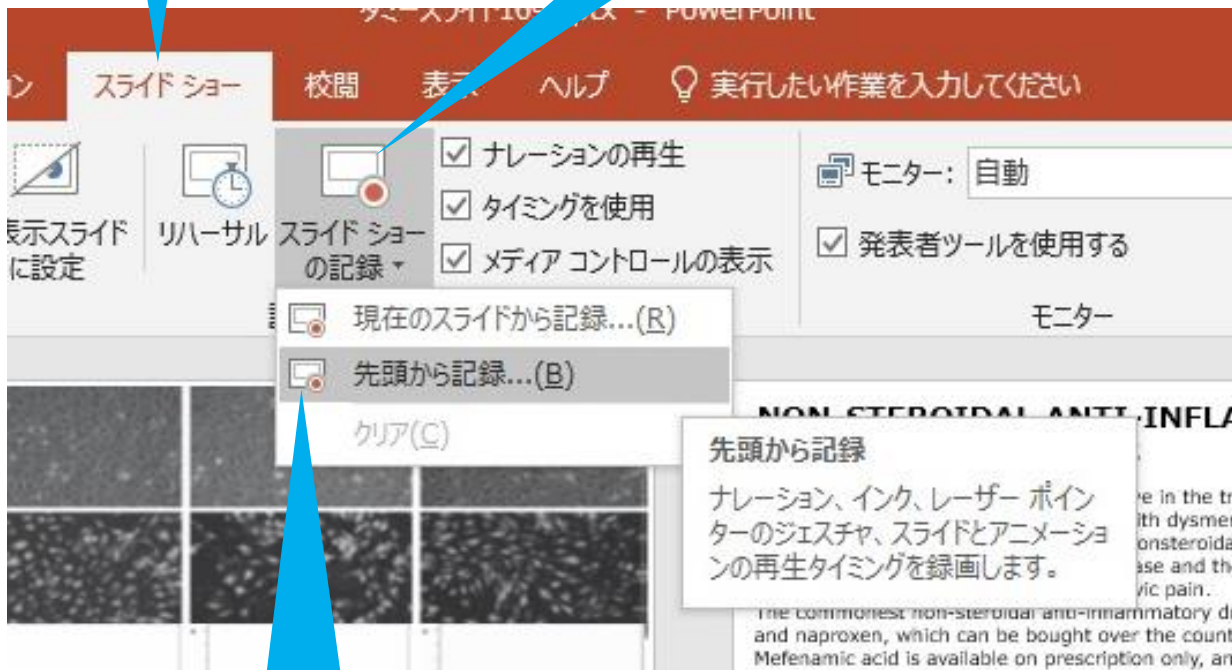


Windows PowerPoint2019・Office365

①「スライドショー」タブをひらく

②「スライドショーの記録」をクリック

⑤「記録の開始」をクリックして録音を開始する



③「先頭から記録」をクリック



④内臓カメラが有効な場合、子画面でカメラ映像も記録されてしまう為、カメラはOFFにしてください

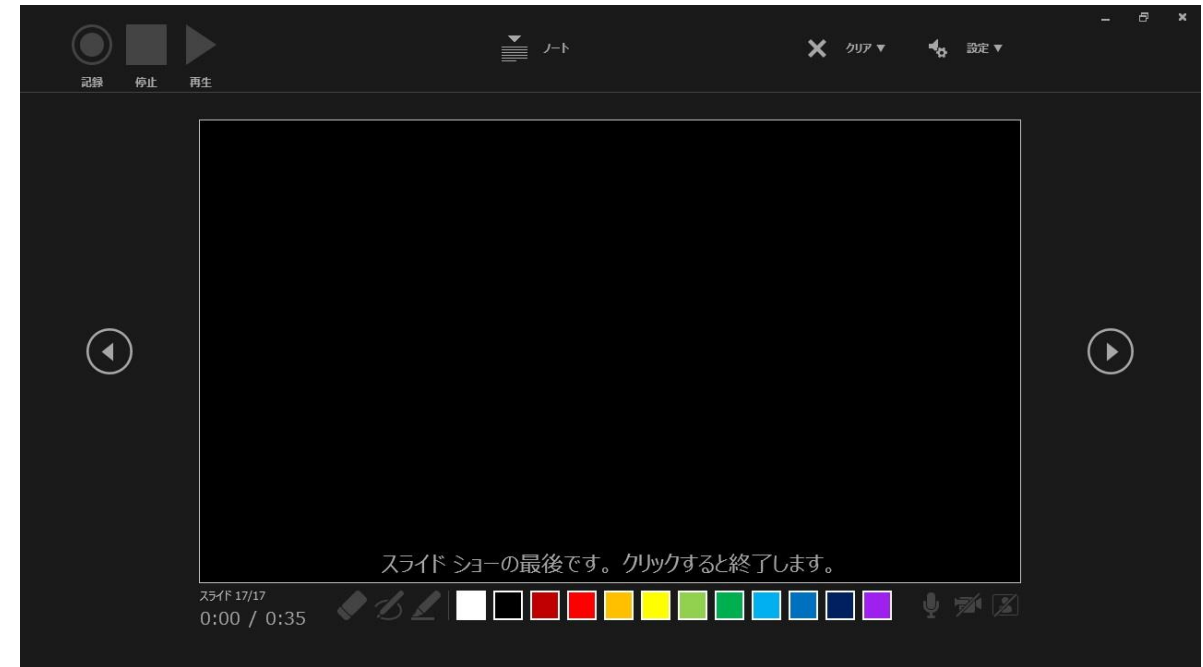
⑥スライドを進めながらマイクに向かってナレーションを録音
(タイトルスライド、及びスライドの切り替え時、音声が続いて
しまうので、スライド表示後、一息おいてから話し始めてください)



「記録の停止」をクリックすると
そこまでの記録が残る

「記録の一時停止」をクリックすると
記録が一時停止となる

⑦下記画面まで進めると自動的に録音が停止し
スライドをもう1枚進めると編集画面に戻る



矢印もしくはスライド上をクリックすると
次に進む



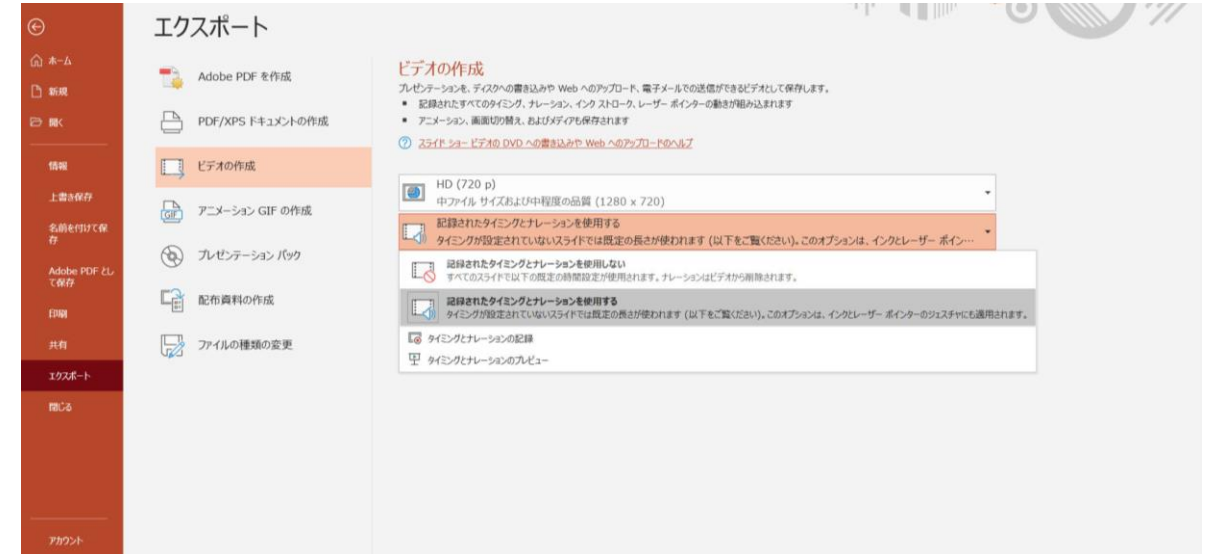
- ⑧スライドショーを最後まで進めて終了した後、「表示」タブ→「スライド一覧」を選択し、スライド一覧表示にして、各スライドの右下に設定された時間が表記されていることを確認した上でPowerPointを保存する(新しく名前を付けて保存)

再度ファイルを開き、スライドショーにして、音声やスライドのタイミング等問題がないか確認する
問題があった場合、該当箇所から再度、記録を行う

⑨スライドを確認して問題なければ、書き出しを行う 「ファイル」→「エクスポート」→「保存と送信」→「ビデオの作成」



ビデオ解像度は[1280×720]を選択



「記録されたタイミングとナレーションを使用する」を選択

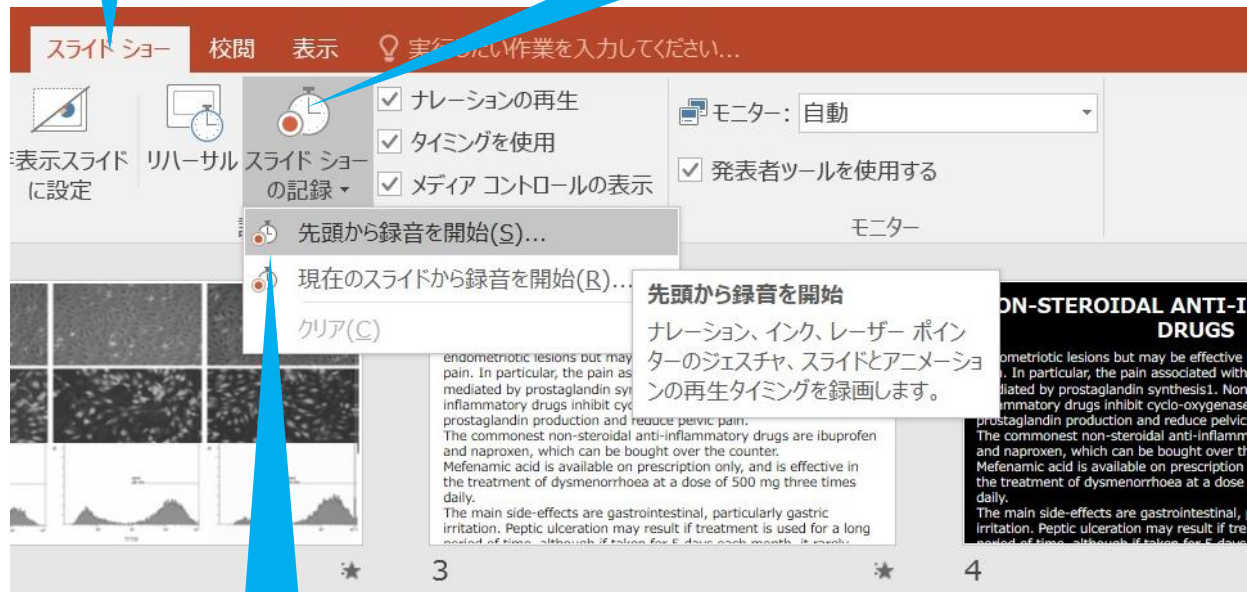
最後に、「ビデオの作成」をクリックすると、すぐに「名前を付けて保存」というウィンドウが現れます。
ファイル名を指定し、ファイル形式では[MP4形式]を選択します。
右下の「保存」をクリックすると、動画が作成され自動的に保存されます。

動画作成の進捗は、右下に表示されます。
※20分のスライドショーからHD画質(1280×720)の動画を作成するのに約20分かかります。

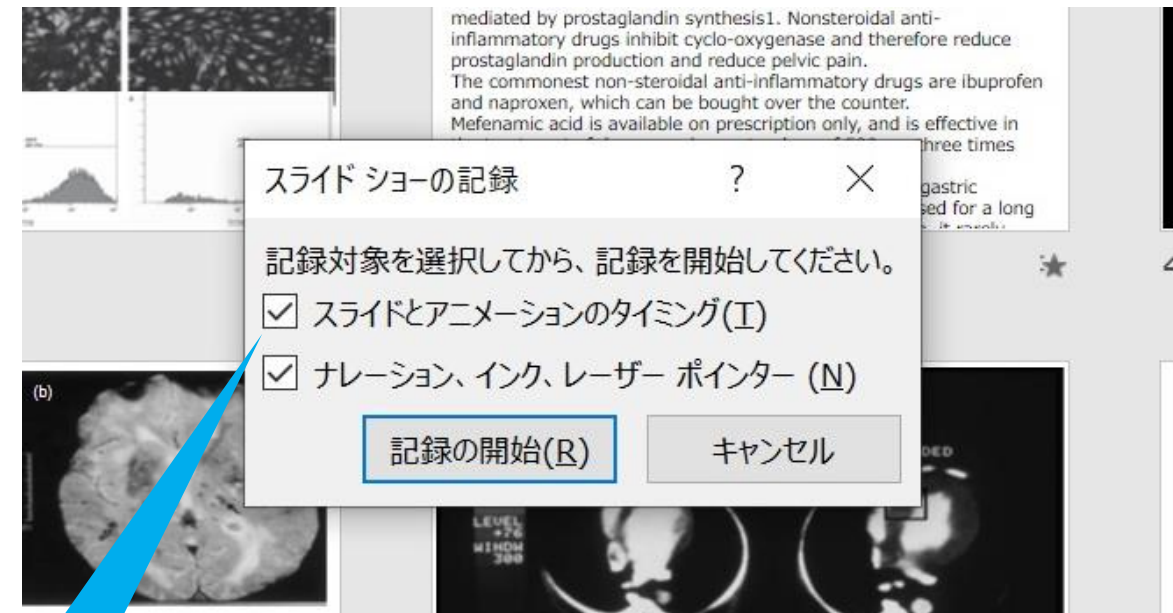
Windows PowerPoint2013・2016

①「スライドショー」タブをひらく

②「スライドショーの記録」をクリック



③「先頭から録音を開始」をクリック



④「スライドとアニメーションのタイミング」、
「ナレーション、インク、レーザーポインター」の
両方にチェックが入っていることを確認し
「記録の開始」をクリックして録音を開始する

- ⑤左上の「記録中」を確認し、プレゼンテーションを進める
(タイトルスライド、及びスライドの切り替え時、音声が入切れてしまうので、スライド表示後、一息おいてから話し始めてください)



- ⑥スライドショーを最後まで進めて終了した後、スライド一覧表示にして、各スライドの右下に時間が表記されていることを確認出来たらPowerPointを保存する(新しく名前を付けて保存)

再度ファイルを開き、スライドショーにして、音声やスライドのタイミング等問題がないか確認する
問題があった場合、該当箇所から再度、記録を行う

⑦スライドを確認して問題なければ書き出しを行う 「ファイル」→「エクスポート」→「保存と送信」→「ビデオの作成」



ビデオ解像度は[1280×720]を選択

「記録されたタイミングとナレーションを使用する」を選択

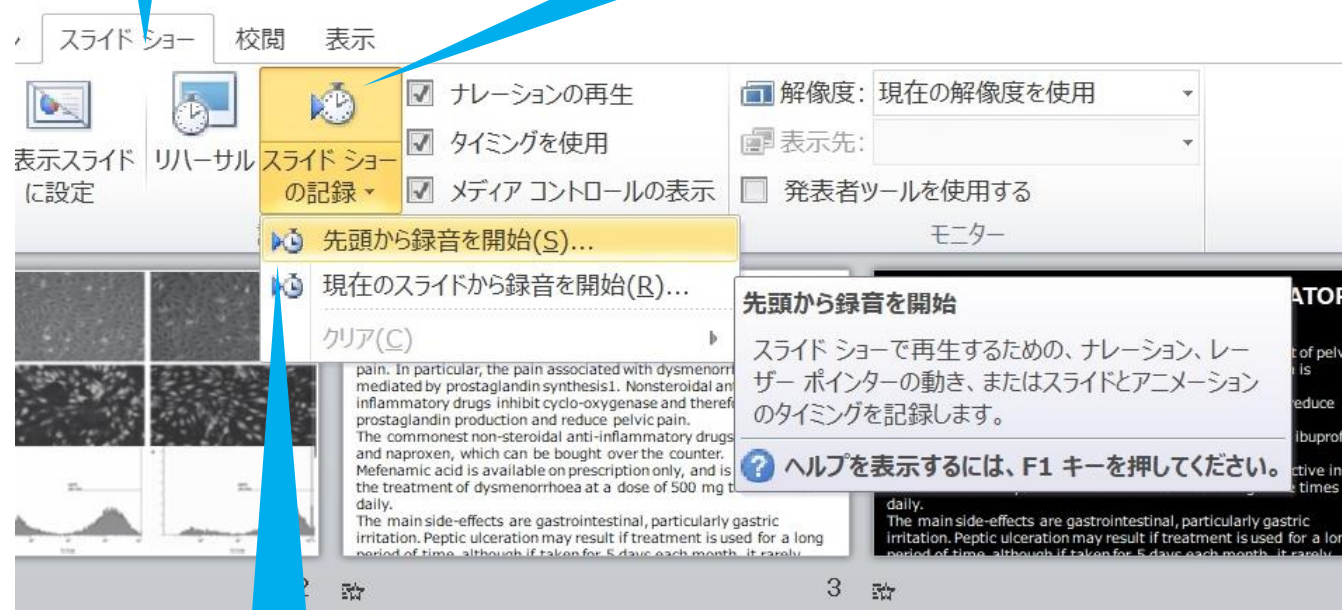
最後に、「ビデオの作成」をクリックすると、すぐに「名前を付けて保存」というウィンドウが現れます。
ファイル名を指定し、ファイル形式では[MP4形式]を選択します。
右下の「保存」をクリックすると、動画が作成され自動的に保存されます。

動画作成の進捗は、右下に表示されます。
※20分のスライドショーからHD画質(1280×720)の動画を作成するのに約20分かかります。

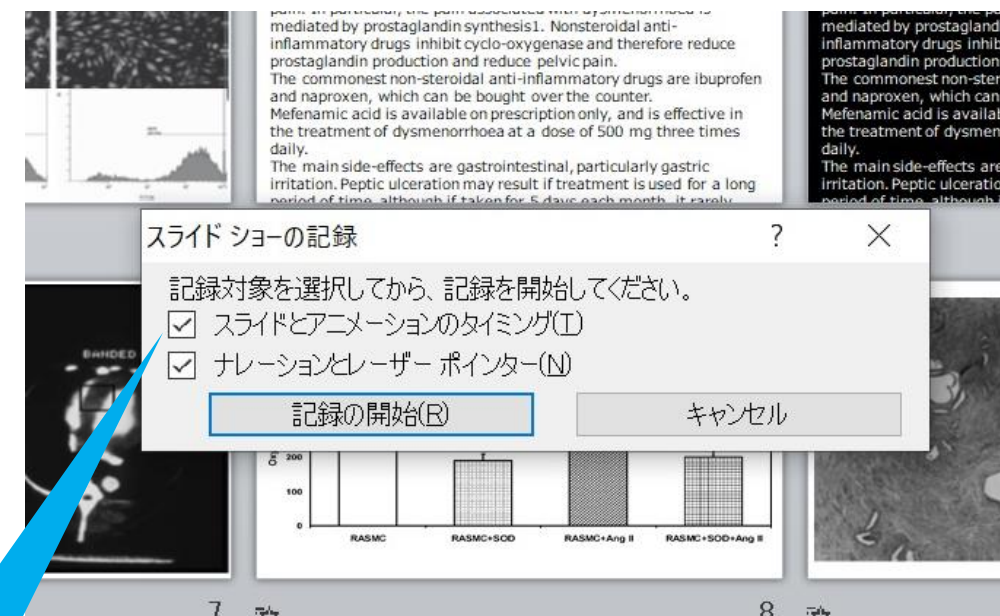
Windows PowerPoint2010

①「スライドショー」タブをひらく

②「スライドショーの記録」をクリック

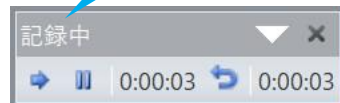


③「先頭から録音を開始」をクリック



④「スライドとアニメーションのタイミング」
「ナレーションとレーザーポインター」の
両方にチェックが入っていることを確認し
「記録の開始」をクリックして録音を開始する

- ⑤左上の「記録中」を確認し、プレゼンテーションを進める
(タイトルスライド、及びスライドの切り替え時、音声が続いてしまうので、スライド表示後、一息おいてから話し始めてください)



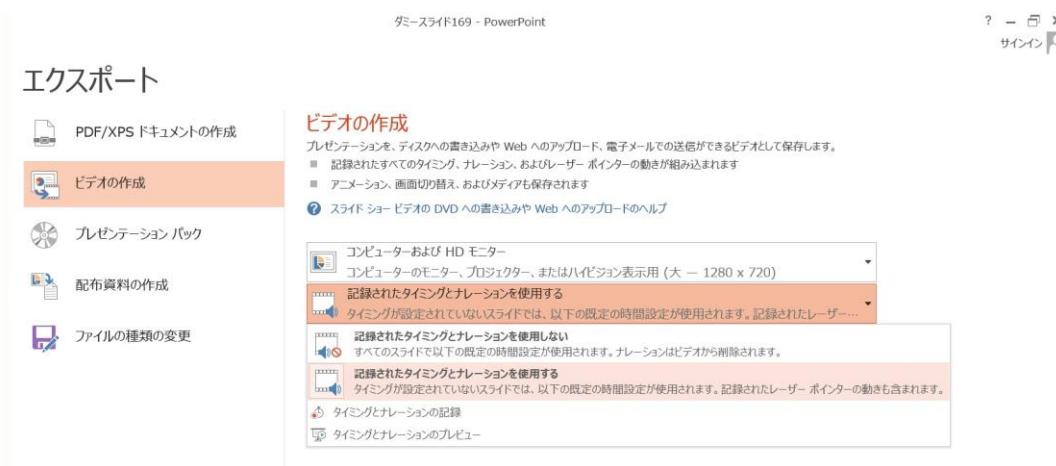
- ⑥スライドショーを最後まで進めて終了した後、スライド一覧表示にして、各スライドの右下に時間が表記されていることを確認出来たらPowerPointを保存する(新しく名前を付けて保存)

再度ファイルを開き、スライドショーにして、音声やスライドのタイミング等問題がないか確認する
問題があった場合、該当箇所から再度、記録を行う

⑦スライドを確認して問題なければ書き出しを行う 「ファイル」→「エクスポート」→「保存と送信」→「ビデオの作成」



ビデオ解像度は[1280×720]を選択



「記録されたタイミングとナレーションを使用する」を選択

最後に、「ビデオの作成」をクリックすると、すぐに「名前を付けて保存」というウィンドウが現れます。
ファイル名を指定し、ファイル形式では[MP4形式]を選択します。
右下の「保存」をクリックすると、動画が作成され自動的に保存されます。

動画作成の進捗は、右下に表示されます。
※20分のスライドショーからHD画質(1280×720)の動画を作成するのに約20分かかります。

Mac PowerPoint for Mac 2019

マイクの確認方法

「システム環境設定」→「サウンド」→「入力」をクリックし、入力デバイスが登録されていることを確認します。

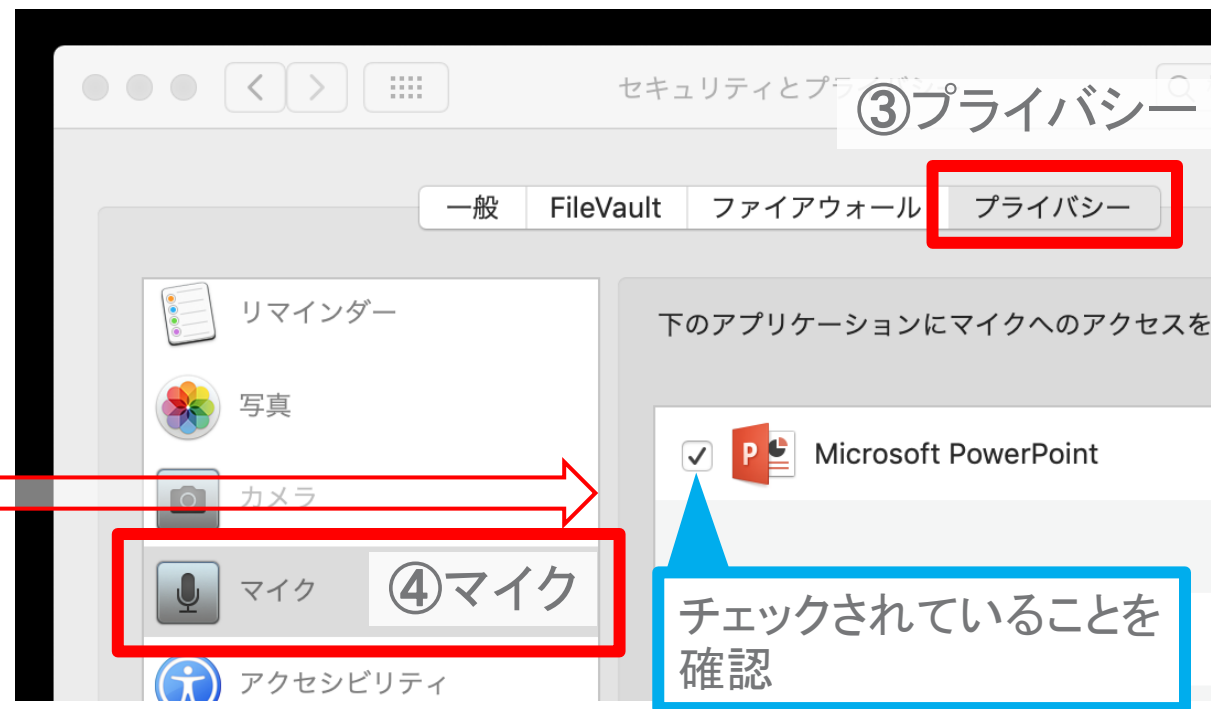
「選択した機器の設定」では試しに発声し、反応することを確認します。



PowerPointでのマイク入力の確認

「システム環境設定」→「セキュリティとプライバシー」→「プライバシー」→「マイク」を選択し、PowerPointの項にチェックが入っていることを確認します。

①システム環境設定

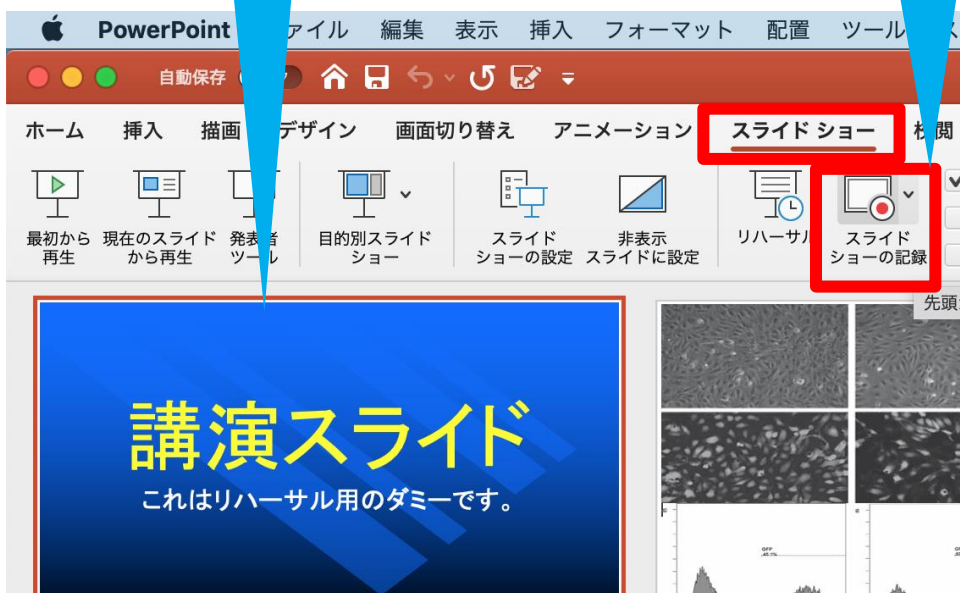


PowerPointでの録音の準備

PowerPointでスライドを開き、1枚目のスライドが選択されていることを確認します。「スライドショー」→「スライドショーの記録」をクリックすると、自動的に、画面がプレゼンの発表者ビューに切り替わり録音が始まります。

1枚目が選択されている状態であることを確認

カーソルを合わせたときに「先頭から録音を開始」という注釈が現れる場合がある



クリックすると画面が切り替わり録音が始まる



スライドショーの実施

通常通り、スライドショーを行ってください。

ペンやポインター等も使えますが、最終的に動画で記録されるのは、スライドを送るタイミングと音声のみです。

タイトルスライド、及びスライドの切り替え時、音声途切れてしまうので、スライド表示後、一息おいてから話し始めてください。

また、前のスライドに戻ると、戻ったスライドの録音が上書きされますので注意してください。



メニューから、ペン、蛍光ペン、ポインターを使用をしても、記録されません

スライドショーの終了

スライドショーを終え、左上の「スライドショーの終了」をクリックすると「今回のタイミングを保存しますか？」という質問が現れるので「はい」を選択します。

「スライドショーの終了」

Summary

Endothelial injury represents a major initiating step in the pathogenesis of vascular disease and atherosclerosis. The identification and quantification of circulating endothelial cells (CECs) as a novel marker of endothelial function. As a technique, it correlates endothelial function such as flow-mediated dilation, the measurement of tissue plasminogen activator. Quantification of CECs is difficult due to morphology, and a lack of standardization in current techniques using a population of cells to endothelial progenitor cells. Increased CECs have been associated with disease states and is evolving as a novel method of assessment of both disease severity and response to treatment. This chapter describes a method that permits simultaneous measurement of leukocyte-endothelium interactions and endothelial nitric oxide (NO) levels in the microcirculation in vivo. The method is also useful to study the effect of NO replenishing therapy on adhesion of leukocytes to the vascular endothelium in acute and chronic inflammatory states of the cardiovascular system. This research approach requires the combination of two well-established physiology techniques, that is, intravital microscopy and real-time measurement of NO with microelectrodes. Intravital microscopy is considered the method of choice to monitor leukocyte-endothelial cell interactions in intact vascular beds of live animals. In vivo microscopy is currently used to study the endothelial cell phenotype of mice carrying mutations or deletion of targeted genes. Intravital microscopy is also used to study endothelial cell function in acute (e.g., ischemia-reperfusion injury) and chronic (e.g., hypercholesterolemia, hyperglycemia, and diabetes) inflammatory states of the cardiovascular system. NO sensors allow for continuous, amperometric quantification of NO levels in cells and organ tissues. Coupling of NO electrode technology with intravital microscopy has recently

スライドショーの所要時間は 0:00:11 です。今回のタイミングを保存しますか？

いいえ(No) はい(Yes)

「はい」をクリック

スライドショーの最後

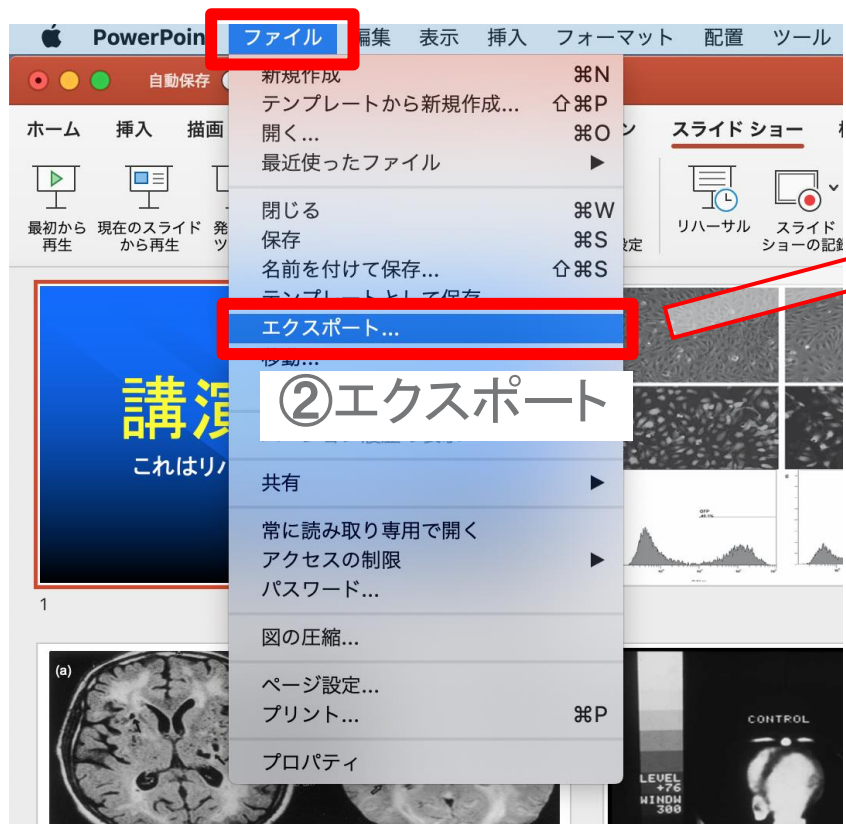
経過 ①

Summary

保存先の選択

「ファイル」→「エクスポート」をクリックすると、ウィンドウが現れます。ファイル名、保存先を選択してください。ファイル形式で「MP4形式」を選択すると、詳細が設定できるようになります。

①ファイル



②エクスポート



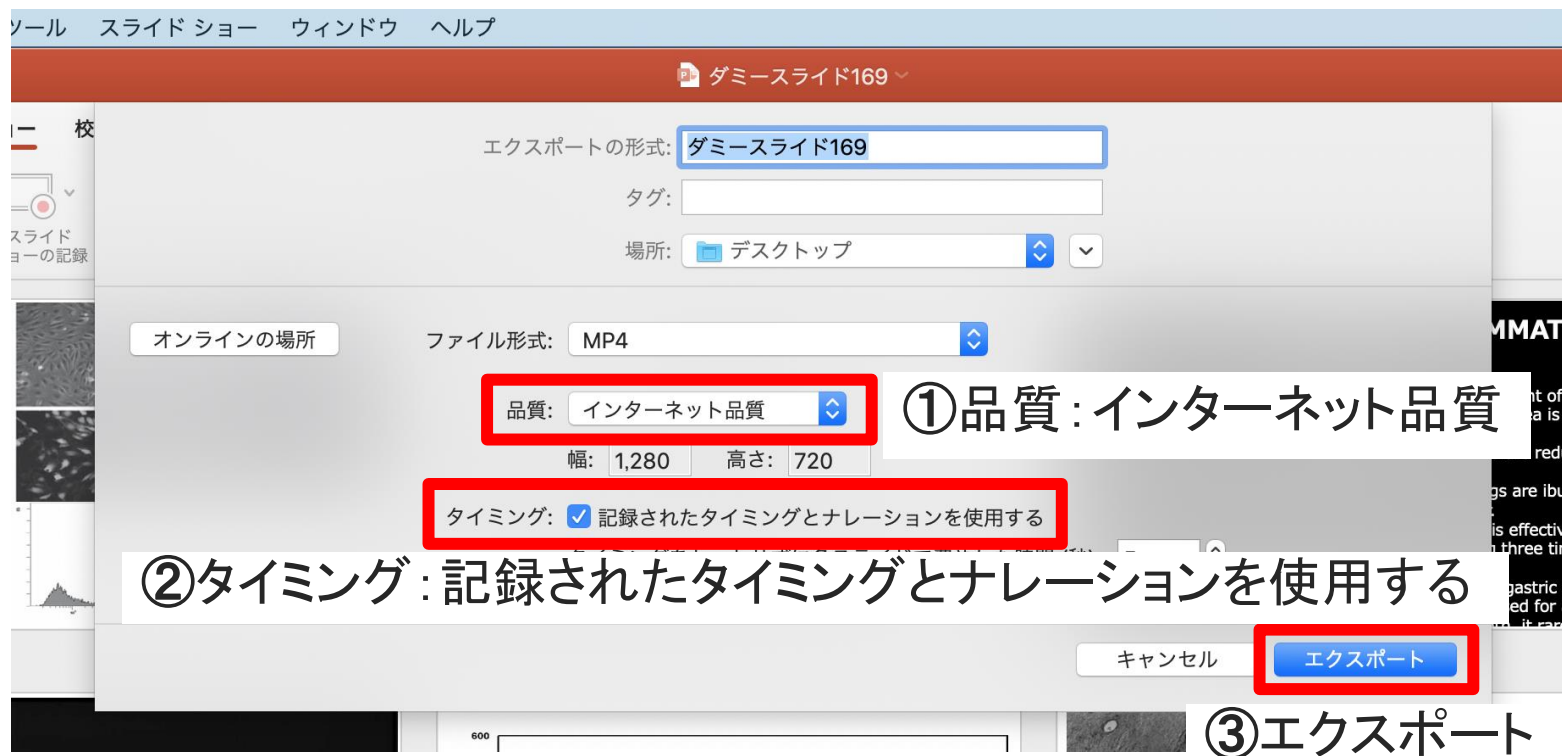
③ファイル形式:MP4



品質の選択、動画作成と保存

品質は「インターネット品質」を選択し「記録されたタイミングとナレーションを使用する」にチェックがついていることを確認します。

「エクスポート」をクリックすると、動画が作成され、自動的に保存されます。



動画作成の進捗は、
右下に表示される

20分のスライドショーから
HD画質(1270×720)の
動画を作成するのに
約10分かかる

